

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号  
実用新案登録第3119169号  
(U3119169)

(45) 発行日 平成18年2月16日(2006. 2. 16)

(24) 登録日 平成18年1月25日(2006.1.25)

(51) Int. Cl.

F I

A 4 1 D 3/04 (2006.01)

A 4 1 D 3/02 (2006.01)

A 4 1 D 3/04 A

A 4 1 D 3/02 Z

| 評価書の請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 5 頁)       |                        |
|--------------------------------------|------------------------|
| (21) 出願番号 実願2005-10170 (U2005-10170) | (73) 実用新案権者 505444721  |
| (22) 出願日 平成17年12月1日 (2005. 12. 1)    | 本田 佳功                  |
|                                      | 京都府京都市左京区浄土寺馬場町 4 1 番地 |
|                                      | (74) 代理人 100068032     |
|                                      | 弁理士 武石 靖彦              |
|                                      | (74) 代理人 100080333     |
|                                      | 弁理士 村田 紀子              |
|                                      | (74) 代理人 100115222     |
|                                      | 弁理士 徳岡 修二              |
|                                      | (74) 代理人 100124796     |
|                                      | 弁理士 重本 博充              |
|                                      | (74) 代理人 100125586     |
|                                      | 弁理士 大角 菜穂子             |
|                                      | (72) 考案者 本田 佳功         |
|                                      | 京都府京都市左京区浄土寺馬場町 4 1 番地 |

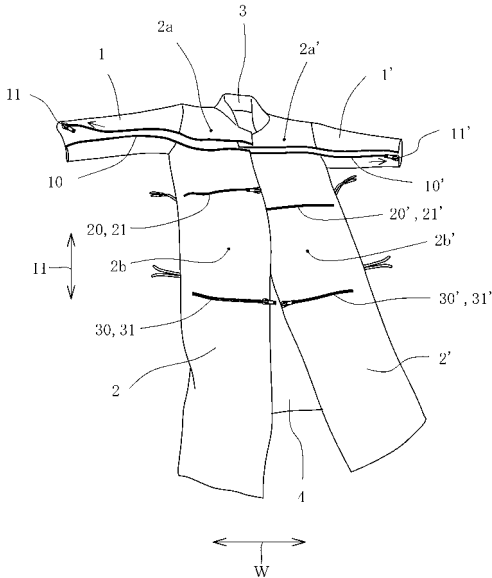
(54) 【考案の名称】 身体障害者等が着用しやすいコート

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 肘関節や肩関節が曲がり難い身体障害者や高齢者等が簡単に着用することができるようにする。

【解決手段】 襟3を備えた前開きコートであって、袖1及び前身頃2が襟3を避けるように袖1から前身頃2の胸元部2aにかけて分割されており、この分割部分10を相互に係合離脱可能のように着脱手段11が設けられている。

【選択図】 図1



## 【実用新案登録請求の範囲】

## 【請求項 1】

襟を備えた前開きコートであって、袖（１）及び前身頃（２）が前記襟（３）を避けるように前記袖（１）から前記前身頃（２）の胸元部（２ a）にかけて分割されており、この分割部分（１ ０）を相互に係合離脱可能なように着脱手段（１ １）が設けられていることを特徴とする身体障害者等が着用しやすいコート。

## 【請求項 2】

前記着脱手段（１ １）がスライドファスナーであって、このスライドファスナーは前記袖（１）から前記前身頃の胸元部（２ a）へスライドして閉じて前記前身頃の胸元部（２ a）から前記袖（１）へスライドして開くように設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載のコート。 10

## 【請求項 3】

前記前身頃（２）の腹部（２ b）を開閉できるように、前記前身頃（２）に、上下方向（H）に所定の間隔を置いて横方向（W）に分割部分（２ ０， ３ ０）が設けられていることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のコート。

## 【考案の詳細な説明】

## 【技術分野】

## 【0001】

本考案は、肘関節や肩関節が曲がり難い身体障害者や高齢者等が簡単に着用できるコートに関する。 20

## 【背景技術】

## 【0002】

従来より、障害者や高齢者が外出する際に着用するコートは色々ある（例えば特許文献 1）。しかし、これらコートは肘関節や肩関節が曲がり難くなった身体障害者等の着用について何ら考慮されておらず、障害者を介護する者は、障害者の腕をコートの袖に通すのに非常に苦勞をしていた。また、肘関節や肩関節が曲がり難い障害者用の衣服として、袖から肩部にかけて分割され開閉できるものもあるが、肩部が分割されるので襟を備えることができず冬季の外出の際には首元が寒くなる。

【特許文献 1】特開平 1 1－2 5 6 4 0 8 号公報

## 【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】 30

## 【0003】

そこで、本考案が解決しようとする課題は、前記した問題点を解決するため、襟を備えて肘関節や肩関節が曲がり難い身体障害者等でも簡単に着用できるよう工夫されたコートを提供することである。

## 【課題を解決するための手段】

## 【0004】

本考案に係るコートは、前記した課題を解決するために、襟を備えた前開きコートであって、袖及び前身頃が襟を避けるように袖から前身頃の胸元部にかけて分割されており、この分割部分を相互に係合離脱可能なように着脱手段が設けられている。 40

## 【0005】

好ましくは、着脱手段がスライドファスナーであって、このスライドファスナーは袖から前身頃の胸元部へスライドして閉じて前身頃の胸元部から袖へスライドして開くように設けられている。

## 【0006】

さらに好ましくは、前身頃の腹部を開閉できるように、前身頃に、上下方向に所定の間隔を置いて横方向に分割部分を設けている。

## 【考案の効果】

## 【0007】

本考案は、前記のように襟を備えたコートにおいて、この襟を避けるように袖から前身 50

頃の胸元部へ向けて分割されており、この分割部分を相互に係合離脱する着脱手段が備えられている。従って、袖を平面状に開いた状態で障害者の腕をのせ、その後分割部分を閉じることにより、障害者の肘関節や肩関節を曲げることなくコートの袖を通すことができる。更に襟を備えているので冬季の外出時でも首元が寒くならない。

【考案を実施するための最良の形態】

【0008】

以下、添付図面に基づいて本考案の一実施例について詳細に説明する。

【0009】

図1は、第一分割部分を開いた状態のコートを示す平面図である。図2は、分割部分を閉じた状態のコートを示す平面図である。図3は、前身頃の腹部を開いた状態のコートを示す平面図である。図4は、本考案のコートを着た障害者が車椅子に乗った状態を示す斜視図である。 10

【0010】

図1の如く、本考案に係るコートは前開きの襟3を備えたコートであって、右袖1及び左袖1'、右前身頃2及び左前身頃2'、後身頃4からなる。右袖1及び右前身頃2は、右袖1の長手方向に沿って右前身頃2の胸元部2aへかけて分割されており、右側の第一分割部分10を形成している。この右側の第一分割部分10によって、右袖1及び右前身頃2を分割して平面状に開くことができる。この分割部分10を相互に係合離脱するために第一分割部分10に沿って第一着脱手段11が設けられている。本実施例では、第一着脱手段11はスライドファスナーである。この右側の第一着脱手段11によって、右袖1及び右前身頃2の分割部分10が開閉できるようになっている。 20

【0011】

左袖1'及び左前身頃1'も同様に構成されており、左袖1'から左前身頃2'の胸元部2a'にかけて左側の第一分割部分10'を備えており、この第一分割部分10'に沿って第一着脱手段11'が設けられている。これら第一分割部分10、10'は襟3を避けるように設けられている。このコートは襟3を備えることにより、外出時でも着用者の首元は寒くならない。

【0012】

そして、障害者等の着用者がこのコートを着用する際には、左右両側の第一着脱手段11、11'を操作して、先ず図1の如く、左右両側の第一分割部分10、10'を離して両袖1、1'を平面状に開き、この上1、1'に着用者の腕をのせる。従って、着用者は腕を曲げる必要がない。その後、図2の如く、左右両側の第一分割部分10、10'を着けて左右袖1、1'を円筒状に閉じて、着用者の腕を左右袖1、1'に通す。 30

【0013】

これにより、着用者は肘関節や肩関節を曲げることなく袖を通すことができる。従って、腕が曲がり難くなった障害者や高齢者でも簡単にコートを着用でき、また介護者も労力が少なくなる。

【0014】

本実施例では、左右両側の第一着脱手段11、11'はスライドファスナーであって、このスライドファスナーは袖1、1'から前身頃2、2'の胸元部2a、2a'へスライドして閉じ、前身頃2、2'の胸元部2a、2a'から袖1、1'へスライドして開くようになっている。これにより、着用者及び介護者が、より簡単に袖1、1'及び前身頃2、2'を開閉できるようになっている。 40

【0015】

図1乃至図3の如く、右前身頃2はさらに横方向Wに2つ分割され、上下方向Hに所定の間隔を置いて右側第二分割部分20及び第三分割部分30を備えている。そして、第二分割部分20には第二着脱手段21が、第三分割部分30には第三着脱手段31が設けられている。本実施例では、各着脱手段21、31はスライドファスナーであって、このスライドファスナーはコートの外側へスライドすることによって離れ、コートの内側へスライドすることによって係合するようになっている。左前身頃2'も同様に構成されており 50

、左側第二及び第三分割部分 20' , 30' を備え、この分割部分 20' , 30' にそれぞれ第二及び第三着脱手段 21' , 31' が設けられている。

#### 【0016】

そして、図 3 の如く、右側の第二及び第三着脱手段 21 , 31 によって、第二及び第三分割部分 20 , 30 を分割することにより、右前身頃 2 の右腹部 2b を開くことができる。同様に、左前身頃 2' の左腹部 2b も開くことができる。これにより、着用者はコートの前開きを閉じた状態で、腹部 2b , 2b' だけを開くことができ、寒さを最小限に抑えることができる。

#### 【0017】

また、第二着脱手段 21 で第二分割部分 20 のみを分割することにより、右前身頃 2 の胸元部だけを開くこともできる。そして、第三着脱手段 31 で第三分割部分 30 のみを分割することにより、右前身頃 2 の膝元部だけを開くこともできる。左前身頃 2' についても同様である。これにより、着用者は必要な時に必要な部分だけを開くことができる。

#### 【0018】

更に、図 1 及び図 2 の如く、コートは、後身頃 4 に、車椅子に固定するための取付手段 5 が設けられている。本例では、取付手段 5 は紐状体や面ファスナーを有する連結ベルト等からなっており、図 4 の如く、車椅子 50 のフレーム等に結んで車椅子からコートがずれないようにしている。

#### 【0019】

なお、コートの前開き部分に、ボタンやホックなどを設けて閉じるようにすることもできる。そして、本考案は、生地 of 素材を変更することにより、防寒用コートだけでなくパジャマ、シャツ、ブルゾン、ジャケット等の様々な衣服に採用できることは言うまでもない。又、各着脱手段 10 , 20 , 30 は面ファスナーやスナップボタン等でもよい。使用者の目が不自由な場合には、袖元部分を逢着することにより、第一分割部分を簡単に係合離脱することができる。

#### 【図面の簡単な説明】

#### 【0020】

【図 1】第一分割部分を開いた状態のコートを示す平面図。

【図 2】分割部分を閉じた状態のコートを示す平面図。

【図 3】前身頃の腹部を開いた状態のコートを示す平面図。

【図 4】コートを着た障害者が車椅子に乗った状態を示す斜視図。

#### 【符号の説明】

#### 【0021】

- 1 袖
- 2 前身頃
- 3 襟
- 5 取付手段
- 2a 前身頃の胸元部
- 10 , 20 , 30 分割部分
- 11 , 21 , 31 着脱手段
- H 上下方向
- W 横方向
- 50 車椅子

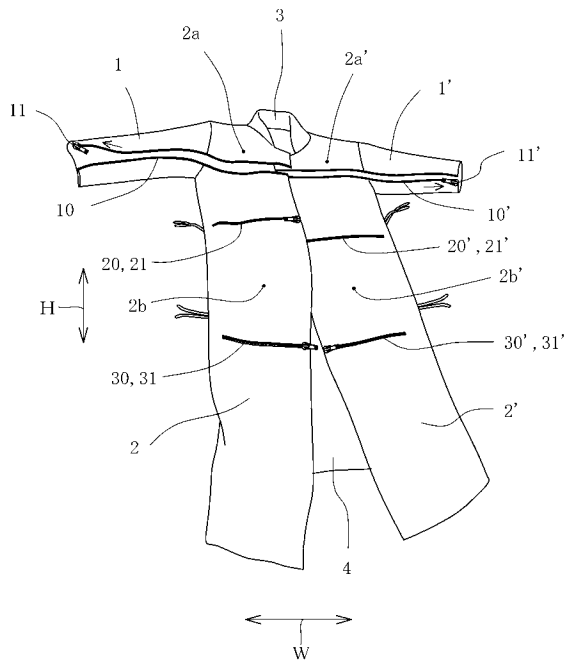
10

20

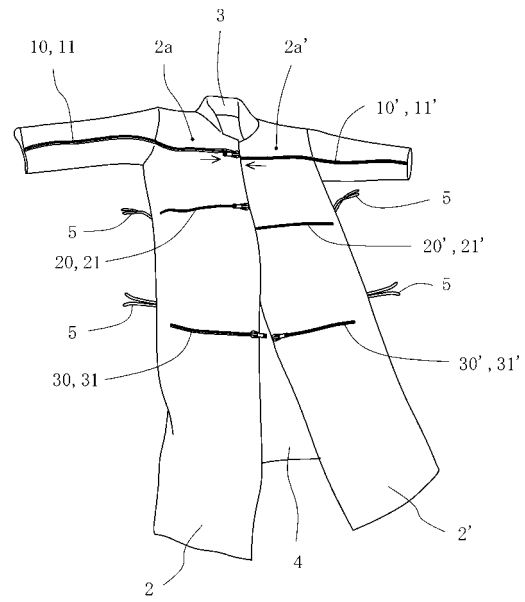
30

40

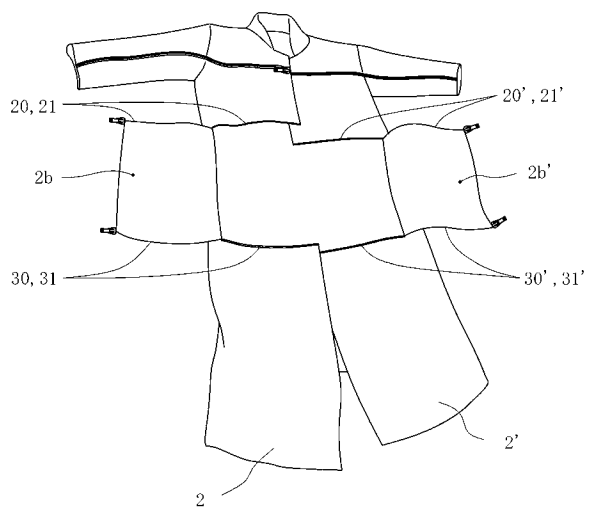
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【図 4】

